

平成 26 年度 教育方法改善のための自己点検・評価(授業評価等)実施状況調査票

1. 学生による授業評価

(1) 実施状況

別紙1「平成 26 年度授業評価実施状況一覧」のとおり

(2) 実施組織

| 学部等 | 大学側(学生側) |
|--------------------|-----------------------------|
| 大学教育・学生支援機構 | 大学教育・学生支援機構、教育基盤センター、教育推進部会 |
| 教育学部 教育学研究科 | 教務委員会 |
| 社会情報学部 社会情報学研究科 | 教務委員会・大学院学務委員会 大学院学務委員会 |
| 医学部(医学科) | 医学科教務部会 (学友会授業向上委員会) |
| 医学部(保健学科) | 教育課程専門委員会 |
| 医学系研究科 | 医科学専攻教務委員会 生命医科学専攻教務委員会 |
| 保健学研究科 | 教務委員会 |
| 理工学部 理工学府 | 評価委員会 (授業改善ワーキンググループ) |

(3) 実施方法

| 学部等 | 実施方法 |
|-------------|---|
| 大学教育・学生支援機構 | <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に実施科目を教育基盤センター運営委員会で選定(26 年度は学びのリテラシー) ・開講授業科目担当教員を通じて質問票を学生に配付、回収 ・回収した質問票は、外部委託によりデータ集計 <p>上記の実施状況(科目数、アンケート回収枚数)以外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教養教育アンケート」として教養教育科目履修学生に対し教務システムでアンケートを実施 ・回答件数: 680 件 ・教務システムから回答データを出力し、集計 |

| | |
|--------------------|---|
| 教育学部 教育学研究科 | <p>前期については、授業時に各教員がアンケート用紙を配付し、学生が回収して教務係へ提出する方式をとった。</p> <p>後期については、WEBを利用しアンケートを実施した。</p> <p>なお、このアンケートによる評価になじまない実験、実技、実習などの講義以外の授業では、別途「授業改善報告書」を教員が作成し、学生が回収して教務係へ提出する方式をとった。</p> |
| 社会情報学部 社会情報学研究科 | <p>前後期の授業終了時(大学院は後期終了時)にアンケート用紙を配布し、回収した。</p> |
| 医学部(医学科) | <p>医学科の学生自治組織である学友会に設置されている授業向上委員会が主体となり、1年次から4年次の各学年に対してアンケートを実施し、回収・集計結果を医学科教務部会に報告している。</p> |
| 医学部(保健学科) | <p>各授業担当者から受講学生にアンケート調査票を配付し、記入の上、保健学科教務係へ提出する。</p> |
| 医学系研究科 | <p>医学基礎技術実習についてはすべての科目を対象として実施、生命倫理公開セミナーについては2科目を対象として実施している。配付は各教員が授業時に行い、回収は大学院係で行った。</p> <p>また、生命医科学専攻の1年次開講科目(学部との共通科目以外の科目)である2科目について実施し、配布は各教員が授業時に行い、回収は大学院係で行った。</p> |
| 保健学研究科 | <p>前学期の授業最終日にアンケートを配布し、各自、あるいは代表者が大学院係へ提出する。</p> |
| 理工学部 理工学府 | <p>前期・後期で、学部・大学院のうち1科目以上は全教員が授業改善のためのアンケートを受けることとした。大学院については、原則全科目で実施することとした。詳細な実施方法は、各学科・教育プログラムで決定したが、主に学生側にアンケート用紙の回収等を行うワーキンググループを組織してもらい、これが主体となって実施した。各教員はアンケート結果に基づいて、学生に回答するためのリアクションペーパー等を作成した。</p> <p>また、これと並行して教員相互の公開授業を実施した。</p> |

(4) アンケート結果に基づく自己点検・評価

| 学部等 | 結果概要・課題・具体的な改善事例など |
|-------------|--|
| 大学教育・学生支援機構 | <p>【結果概要】</p> <p>「学びのリテラシー」を対象に学生アンケートを実施した。教養教育のカリキュラム(授業科目のメニュー、時間割、授業内容)や教養教育における教員の授業の教え方などの確認ができ、課題も見つけることができたので今後の授業内容等の改善が期待される。</p> |
| | <p>【課題】</p> <p>教養教育アンケートでは、総合的な評価では概ね好評であった。</p> |
| | <p>【具体的な改善事例】</p> <p>評価結果を各教員にフィードバックし、授業改善を促している。</p> |

| | |
|----------------------------|--|
| <p>教育学部 教育学研究科</p> | <p>【結果概要】 総合評価において、9割以上の学生が肯定的な評価(「優れている」「やや優れている」)をしている。 後期はWEBによるアンケートを実施し、業務の効率化や利便性を図った。しかしながらアンケート回答者数が減少し、昨年度の同時期と比較して5割程度の回答者数であった。</p> <p>【課題】 全体から比べると小さな割合だが、評価項目の「説明の分かりやすさ」及び「板書の見やすさ」において、改善すべきとの評価をしている学生がいた。 WEBによる授業評価アンケートの回答率を上げるための工夫必要がある。</p> <p>【具体的な改善事例】 評価結果を各教員にフィードバックし、授業改善を促している。 学生に対するアンケートへの協力依頼を徹底するほか、アンケートの回答率を上げるための方策を教務委員会において検討する。</p> |
| <p>社会情報学部 社会情報学研究科</p> | <p>【結果概要】 授業評価アンケートの結果を踏まえ、授業内容や授業方法等の改善に努めている。 学部評価アンケートでは、授業について「興味が持てる」「考える力を高めた」「将来役に立つ」「4段階で評価」の項目に対し、「そう思う」「まあそう思う」の回答がいずれも90%前後であった。 「わかりやすかった」「学生の反応や理解度を確認しながら授業を進めていた」の項目については、同じ回答が85%前後であった。大学院の授業については回答数が少ないが「大変役立つ」「興味深い」「大変参考となる」といった記述が多かった。</p> <p>【課題】 おおむね現状を維持しつつ、「わかりやすさ」「学生の反応や理解度の確認」という点で、いっそうの向上をめざす必要がある。</p> <p>【具体的な改善事例】 公開授業を通じてまた個々の教員の創意工夫により、授業の「わかりやすさ」の向上および「学生の反応や理解度の確認」の徹底を図る。</p> |
| <p>医学部(医学科)</p> | <p>【結果概要】 アンケート集計結果は、医学科教務部会に報告後、例年実施しているFDで公表して今後の授業内容、事業実施方法の向上に寄与している。</p> <p>【課題】 個別科目のアンケート結果を、教員へフィードバックする方法を検討しているが、実施に至っていない。</p> <p>【具体的な改善事例】 アンケートは、学生主体で行っていることから、学生の自由な意見を拾い上げているので、学生の本音が反映されている。また、学生・教員間で活発な意見交換が可能となっている。</p> |
| <p>医学部(保健学科)</p> | <p>【結果概要】 全科目に対して授業評価アンケートを実施し、パーセンテージを相対的に比</p> |

| | |
|--------|--|
| | <p>較した。</p> <p>【課題】 紙ベースでの実施方法から新教務システムを用いての実施方法に移行予定だが、アンケート回収率をいかに上げるかが課題である。</p> <p>【具体的な改善事例】 アンケート結果及び学生からのコメントを全教員に提供し、授業方法・質の向上に努めている。</p> |
| 医学系研究科 | <p>【結果概要】【課題】【具体的な改善事例】 生命倫理公開セミナーに関しては、アンケートによるフィードバックは授業担当教員までであり、授業の改善に役立っているが、医科学専攻教務委員会でアンケートの内容について審議し、シラバスの向上に活かす方向で検討中である。</p> <p>医学基礎技術実習のすべての科目に関しては、アンケート結果を大学院教育研究支援センター教育研究部門運営委員会において審議し、実習内容の改善に役立っている。</p> <p>リーディング大学院のプログラム全体に関しては、学生からの要望を受けてプログラムの改善に活かしているが、個々の授業に関するアンケートは実施しなかったため、平成 27 年度以降は実施して授業内容の改善に活かしたいと考えている。</p> |
| 保健学研究科 | <p>【結果概要】 保健学研究科博士前期課程の各領域学生の必修科目である特別セミナーにおいて実施した。授業評価についての回答は5段階評価で4、5が多数となり、おおむね好結果が得られた。</p> <p>【課題】 自由記述欄を広く設けた書式にしたので、学生の率直な意見が集約できた。オムニバス形式の授業で、各領域それぞれ先端的研究を紹介する内容としているが、今後もいかに学生の興味を引くテーマが紹介できるかが課題である。</p> <p>【具体的な改善事例】 3科目ともオムニバスであり、各領域の教授、非常勤講師からさまざまな話題が講義された。多岐にわたる研究テーマが学生の興味を引く内容となったと考えられるため、今後も最新研究の動向を紹介できる非常勤講師の人選をすすめたい。</p> |

| | |
|--------------|---|
| 理工学部 理工学府 | <p>【結果概要】</p> <p>改善を希望する点が詳しく書かれているので、教員にとって授業方法改善の参考となり、その結果、以前と比較してマイナス評価は減る傾向にあり、学生の授業に対する理解度や満足度はかなり向上していると言える。</p> <p>また、授業時間外平均学習時間について今年度前期までは時間数を記入させる方式だったため、回答する学生が少なかったが、これから行われる認証評価でこの項目が含まれており、回答率を上げる目的で後期から記述式から選択式に変更したところ、ほぼ全員の回答を得ることができた。</p> <p>アンケート結果のフィードバックについては、各学科・教育プログラム内での「学生との懇談会」を中心に行われている。</p> |
| | <p>【課題】</p> <p>特になし</p> |
| | <p>【具体的な改善事例】</p> <p>特になし</p> |

2. 学生との懇談会

(1) 実施状況

| 学部等 | 名称 | 実施月日 | 大学側参加者数 | 学生側参加者数 | 内容 |
|------------------------|--------------|-----------|---------|---------|---|
| 大学教育・学生支援機構 | 学生と学長との懇談会 | H26. 7.22 | 15名 | 119名 | 4月入学の学生を対象に大学生活に関して、学長と直接対話する機会を設け、大学への意見・要望を聴取 |
| 教育学部 教育学研究科 | 学部長との懇談会 | H27. 1.20 | 5名 | 3名 | 学生生活、学習環境などについて意見交換 |
| | 院生との懇談会 | H27. 2.28 | 11名 | 24名 | カリキュラム、学習環境などについて意見交換 |
| 社会情報学部 社会情報学 研究科 | 学部長と学部生との懇談会 | H26.10.29 | 11名 | 10名 | 学部長(他の教員を含む)と学生とで懇談 |
| | 研究科長との懇談会 | H27. 1.28 | 3名 | 7名 | 研究科長(他の教員を含む)と大学院生とで懇談 |
| 医学部 (医学科) | 学友会との懇談会 | H26. 7.14 | 20名 | 22名 | 授業・実習関係施設及び学生生活関係について意見交換 |
| | 学友会との懇談会 | H27. 2. 2 | 23名 | 19名 | 授業・実習関係施設及び学生生活関係について意見交換 |
| 医学部 (保健学科) | 学友会との懇談会 | H26. 7.10 | 26名 | 18名 | 教育課程・施設等の要望事情聴取・意見交換 |

| | | | | | |
|--------------|---|-----------|------|------|---|
| | 学友会との懇談会 | H26. 2.11 | 26 名 | 17 名 | 教育課程・施設等の要望 事情聴取・意見交換 |
| 理工学部 理工学府 | 平成 26 年度前期 授業改善アンケート 報告会 (化学・生物化学 科 2 年生) | H26. 7.24 | 14 名 | 55 名 | アンケート実施科目全てに 関して、学生 WG 委員が集 計結果及び教員からの回 答を PP を用いて説明した 後、最後に教員と学生間で 意見交換 |
| | 平成 26 年度前期 授業改善アンケート 報告会 (化学・生物化学 科 3 年生) | H26. 7.22 | 16 名 | 25 名 | 同上 |
| | 平成 26 年度後期 授業改善アンケート 報告会 (化学・生物化学 科 2 年生) | H27. 1.20 | 13 名 | 45 名 | 同上 |
| | 平成 26 年度後期 授業改善アンケート 報告会 (化学・生物化学 科 3 年生) | H27. 1.13 | 18 名 | 20 名 | 同上 |
| | 3 年生と教員との 懇談会 (機械知能システ ム理工学科) | H26. 8. 5 | 4 名 | 82 名 | 3 年生からの授業や学生生 活に対する要望や意見を 聞き、その場で教員側が対 応 |
| | 2 年生と教員との 懇談会 (機械知能システ ム理工学科) | H26. 8. 6 | 4 名 | 84 名 | 2 年生からの授業や学生生 活に対する要望や意見を 聞き、その場で教員側が対 応 |

| | | | | | |
|--|---------------------------|-----------|----|-----|---|
| | 授業アンケート等に関する学生懇談会（環境創生部門） | H26. 6.27 | 4名 | 7名 | 以下の内容について学生と意見交換 ・授業アンケートの結果 ・学生の授業態度・学習意欲 ・施設等 ・2年生のコース分け ・3年生の研究室仮配属など |
| | 授業アンケート等に関する学生懇談会（電子情報部門） | H26.12.15 | 4名 | 2名 | 以下の内容について学生と意見交換 ・3年生の研究室仮配属など |
| | 授業アンケートに基づく懇談会（電子情報部門） | H27. 2. 6 | 3名 | 9名 | 授業アンケート結果に基づく教員と学生の意見交換 |
| | 授業アンケートに基づく懇談会（生産システム工学） | H26.12.19 | 9名 | 31名 | 教員と学生の意見交換 |

(2) 懇談会での意見に基づく 自己点検・評価

| 学部等 | 結果概要・課題・具体的な改善事例など |
|-----------------------------|--|
| 大学教育・学生支援機構 | <p>【結果概要】 施設・設備、学習環境、他学部との交流などについて、学生から意見・要望があった。</p> <p>【課題】 ① 履修できる科目の改善についての要望が多い ② 体育館など学内施設の改善を求める学生が多い ③ バスなど公共交通機関に関する要望が多い ④ 防犯対策の強化</p> <p>【具体的な改善事例】 平日昼間時間帯警備員を配置し、構内の巡回警備に当たらせている。</p> |
| ※詳細については別紙2「学生と学長との懇談会要旨」参照 | |

| | |
|----------------------------|--|
| <p>教育学部 教育学研究科</p> | <p>【結果概要】 設備、学習環境等について学部学生から要望があった。 カリキュラム、授業・実習、学習環境等について大学院生から要望があった。 平成25年後期及び平成26年度前期の授業評価アンケート集計結果を基に学部学生と意見交換を行った。 学部学生の参加者が非常に少ない。</p> <p>【課題】 ① 設備面、放課後の教室開放や掲示板の掲示物全ての電子化など学習環境・学生生活面の改善を求める学生が多い。 ② 大学院においては、他専修の学生との交流・意見交換を求める学生が多い。 ③ 学部学生の参加者を増やす方が必要である。</p> <p>【具体的な改善事例】 ① 放課後の教室開放について、盗難や電気・空調の電源が教室使用後に切られていないという問題点もあるので、それらの解消方策と共に学習場所の提供に向け検討を進めている。 ② 学生支援委員会において、学部学生の参加を増やす方策について検討を進めている。 ③ 大学院の他専修との交流を増やす方策として、各専修が別個に実施している修士論文発表会を合同で実施できないか検討を進めている。</p> |
| <p>社会情報学部 社会情報学研究科</p> | <p>【結果概要】 学生からの要望や希望等を踏まえて学修環境の改善等を行った。</p> <p>【課題】 実施結果により社会情報学部棟における利用時間の周知が、過去には行われたことがあったが、現在行われていないことが判明した。</p> <p>【具体的な改善事例】 学生委員会において協議の後、再度学生に周知を行うこととした。また、夜間の照明について節電のためタイマーを設置(エントランス・サブエントランス)した。</p> |
| <p>医学部(医学科)</p> | <p>【結果概要】 ① 学生による授業評価で実施したアンケート結果に対する意見交換 ② 施設設備や事務側に対する学生生活に関する意見交換</p> <p>【課題】 実施体制の整備</p> <p>【具体的な改善事例】 意見交換の結果、授業方法に関する内容は教員が行い、また、事務的に早急に対応すべきところは事務的に対応している。 臨床実習等医学科全体に関することは、医学科教務部会、医学科会議で検討し、改善できるところは改善している。</p> |

| | |
|----------------------|---|
| <p>医学部(保健学科)</p> | <p>【結果概要】 懇談の結果、サークル団体の学生駐車場の利用方法について実現した。</p> <p>【課題】 老朽化が進んでいる西棟の改修</p> <p>【具体的な改善事例】 構内危険箇所の整備として、自転車置き場の舗装を行った。</p> |
| <p>理工学部 理工学府</p> | <p>【結果概要】 懇談会では学生の参加者を増やすため、期末試験期間中の必修科目修了直後に懇談会を開催するように工夫した学科もあり、結果としてこの学科は参加者が多かった。懇談会では講義に関する意見だけではなく、学生生活関連の意見を聞くこともできた。懇談会の議事録は教員にメールで知らせるとともに、アンケート集計結果と共に事務室で公開され、学生も自由に見ることができる。</p> <p>【課題】 広く学生に開催を周知し、参加しやすい時間帯に設定しても参加が少なかった学科もあり、学生と教員、または学生同士の交流が希薄ではないかという指摘を受けた。</p> <p>【具体的な改善事例】 学生同士または学生と教員の交流を深めるため、有志学生によるイベント等を開催するなど対応を検討していく。</p> |

3. FD活動

(1) 実施状況

| 学部等 | 実施組織 | 名称 | 実施月日 | 教員参加者数 | 内容 |
|-----------------|----------------|---|-----------------------------|-----------|--|
| 大学教育・ 学生支援機構 | 教育基盤 センター | ベストティーチャー 賞選考のための 公開模擬授業 | H26. 6. 3 | 17名 | 各部局から推薦された 最優秀賞候補者6名によ る公開模擬授業を実施 |
| | 教育基盤 センター | 教養教育ベスト ティーチャーに よる公開授業 | H26.10. 1 ～ H26.10.27 | 4名 | 昨年に引き続き、教養教 育ベストティーチャー優 秀賞受賞者2名の授業を 公開 |
| | 教育基盤 センター | 英語教育FD | H26. 9.18 | 22名 | 実例発表を通して今後 の英語教育方法の改善 について確認 |
| | 教育基盤 センター | 平成26年度 学 びのリテラシー FD | H26.11.28 | 16名 | 平成 24 年度に試行的に 実施し、本格的な導入後 2年目を迎え、その取り 組みを検証 |
| | 教育基盤 センター | 第6回全学FD 連続講演会 「大学教育のグ ランドデザイン」 | H27. 2.20 | 23名 | 他大学の事例発表を通 して今後の大学教育の 取り組みについて確認 |
| | 教育基盤 センター | 英語教育FD | H27. 3.10 | 15名 | 実例発表を通して今後 の英語教育方法の改善 について確認 |
| | 教育学部 教育学研究科 | 教育学部 | 特設の授業公開 (前期) | H26. 5.30 | 2名 |
| 教育学部 | | 特設の授業公開 (前期) | H26. 7. 1 | 3名 | 授業の参観 及び授業研究会 |

| | | | | | |
|--------------------|-----------------|-----------------|-----------|-----|---|
| | 教育学部 | 特設の授業公開 (後期) | H26.12. 4 | 0名 | 授業の参観 及び授業研究会 |
| | 教育学部 | 特設の授業公開 (後期) | H26.12.16 | 1名 | 授業の参観 及び授業研究会 |
| | 教育学部 | 教育学部 FD 講演会 | H27. 3. 3 | 79名 | 地域とともにある学校づくり ～コミュニティ・スクール と地方創生～ |
| | 教員養成 FD センター | 新任教員研修会 | H26. 4. 4 | 11名 | 教育学部の新任教員に 対し、本学部の特色、附 属学校園の役割、教員 養成のしくみ、FD センタ ーの目指すものについ て講話 附属学校園の公開研究 会と、教育実習について 説明 |
| | 教員養成 FD センター | 第1回教育 サロン | H26. 7. 7 | 9名 | 学部新任教員を囲み、附 属小学校の公開研究会 に参加して感じたことを 意見交換 附属小学校教員による 「附属小学校における授 業の実際と授業研究の 概要」の発表と、それ について教員間で討議 |
| | 教員養成 FD センター | 第2回教育 サロン | H26.12.10 | 10名 | 教育実習の授業参観を 通じて感じたことを教員 間で意見交換 附属小学校教員による 「附属小学校における教 育実習の概要と課題」の 発表が行われ、それ について教員間で討議 |
| 社会情報学部 社会情報学研究科 | FD 専門委員会 | 入試状況説明会 | H26. 6.25 | 15名 | 入試状況把握のための 説明会 |
| | FD 専門委員会 | 公開授業 | H26.12. 8 | 5名 | 「社会倫理Ⅱ」 |

| | | | | | |
|--------------|--------------------------------|--|-----------|-------|---|
| | FD 専門委員会 | 公開授業 | H27. 1.26 | 5 名 | 「憲法Ⅱ」 |
| 医学部(医学科) | 医学教育センター | 医学教育教授法 ワークショップ | H26.12. 6 | 123 名 | 模擬授業 新実習説明会、特別講演 |
| 医学部(保健学科) | 教育課程 専門委員会 | 保健学教育 ワークショップ | H26. 9.16 | 67 名 | ベストティーチャー 賞受 賞者による講演 |
| | 教育課程 専門委員会 | 保健学教育 ワークショップ | H27. 3.11 | 65 名 | 未来先端研究機構 研究環境整備 |
| 医学系研究科 | 医科学専攻 教務委員会 | 群馬大学大学院 医学系研究科医 科学専攻・ 生命医科学専攻 FD 兼 成果報告 会 | H27. 2. 4 | 80 名 | 「研究環境の整備につ いて」 |
| 理工学部 理工学府 | 電子情報理工学 科(情報科学) カリキュラム委員 | カリキュラム委 員会(座談会) | H26.11.18 | 10 名 | 実験・演習の担当者によ る以下の内容について の講義 ・担当者による、主に実 験・演習およびそれらに 関連する講義 ・現状確認、改善点・問題 点、講義と演習、実験の 連携の再確認 ・レポートの提出状況や 実験・演習への学生の出 席状況・取り組み、カリキ ュラムの見直し等につ いて議論 |
| | 高度人材 育成センター | 第 4 回博士キャ リア開発講演会 | H26.11. 4 | 114 名 | 演題「未来を担う博士へ の期待」 博士人材に産業界が求 める能力と資質につ いての講演 |

| | | | | | |
|--|------|-------------------------|-----------|-------|--|
| | 理工学府 | FD 講演会 | H26.10.15 | 100 名 | 東京大学大学院情報理工学系研究科 石川正俊教授の講演会 演題「新しい時代の研究者像」産学連携、オープンイノベーション、グローバル化をどのように受け止めるべきか |
| | 理工学部 | ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による模擬授業 | H27. 1.28 | 110 名 | ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による模擬授業 |

(2) FD活動に基づく 自己点検・評価

| 学部等 | 結果概要・課題・具体的な改善事例 |
|----------------|--|
| 大学教育・学生支援機構 | <p>【結果概要】 学びのリテラシーFDでは、各学部の取り組み状況を検証し、全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」では、他大学の事例発表を通して今後の大学教育の取り組みについて確認した。</p> <p>【課題】 特になし</p> <p>【具体的な改善事例】 英語教育FDでは、平成26年度からクラス分けは年度当初のみに変更し教育効果を図る試みを実施した。教員からは旧年と比較し講義の円滑な運営に力を入れることができているとの意見が寄せられた。</p> |
| 教育学部 教育学研究科 | <p>【結果概要】 見学者・授業者が相互に授業改善に資することを目的に、授業評価で好評を得ている授業について、広く見学者を募って授業公開を行った。 新任教員研修会を開催することで新任教員に、教育学部の特色やカリキュラム、附属学校園の役割や公開研究会、教育実習について速やかに理解してもらうことができた。 第1回教育サロンでは、附属学校園の公開研究会に参加した教員が公開研究会について話し合い、附属小学校教員からの授業の実際や授業研究について発表を聞くことで、新任教員、学部教員が附属学校園の授業や研究について理解を深めることができた。 第2回教育サロンでは、教育実習の授業を参観した教員が教育実習について話し合い、附属小学校教員からの教育実習の概要と課題について発表を聞くことで、新任教員、学部教員が教育実習について理解を深めることができた。 第1回、第2回の教育サロンにおける附属小学校教員からの発表は、前年度までになかった新しい活動であり、これを行うことで、新任教員や学部教員が、附属学校園の研究や教育実習について、理解をより深めることができるとともに、大学と附属学校園の教員の相互理解や交流を深めることができた。</p> |

| | |
|--------------------|---|
| | <p>【課題】 授業公開への教員の参加数が少ないことが課題である。 新任教員研修会により、学部新任教員が、附属学校園の公開研究会や教育実習に積極的に参加し、教育現場の課題について考える機会を得ることができた。 教育サロンにおいて、学部教員から教育実習の参観の仕方、授業研究会での発言の仕方などについて経験談を話してもらうことで、新任教員の教育実習に対する指導の心構えを得られた。 学部と附属学校園の教員がたがいの授業を参観し合い、授業研究を深めていくということが、今後の課題としてあげられる。</p> <p>【具体的な改善事例】 教育学部では授業公開の日時・内容等について掲示するだけでなく、全教員宛にメールにて通知している。 新任教員に対しては、FD センターから附属学校園の公開研究会や教育実習の予定できるだけ早めに知らせ、それらに積極的に参加してもらうように呼びかけた。 FD センターにおいて、学部、附属学校園の授業の視聴を検討している。</p> |
| 社会情報学部 社会情報学研究科 | <p>【結果概要】 入試状況説明会では、進研アド担当者による説明と出席者との間での質疑応答により、本学部に関しては、併願状況としては前後期一貫しての受験生が目立つこと、合格者の偏差値は横ばい傾向にあること、等の状況把握を共有することができた。 公開授業では、前年度は社会情報学の社会問題との結びつきや諸学との融合性が確認されたが、今年度は、「社会倫理Ⅱ」ではテキスト理解のための視聴覚教材の活用、「憲法Ⅱ」では講義者が自身の見解を示した上で受講者の自発的な学習と見解形成を促す講義方法の、有効性が確認された。</p> <p>【課題】 本学部受験生層のおおよその傾向を把握しておくこと、また様々な教材および講義法を工夫し「わかりやすい」また「学生の反応や理解度の確認」に努める授業方法を検討し続けること、が必要である。</p> <p>【具体的な改善事例】 今年度入試の分析結果をあらゆる機会を捉えて共有する。また公開授業を通じ、それぞれの教員による様々な授業方の創意工夫を共有することに努める。</p> |
| 医学部(医学科) | <p>【結果概要】 アンケートを実施することで授業改善の再認識の一助となることが考えられる。また、模擬授業を行うことで分かりやすい授業方法を参加教員に啓蒙できる。</p> <p>【課題】 多くの教員がFD参加するよう出席率の向上をはかる必要がある。</p> <p>【具体的な改善事例】 模擬授業を参考にして他の授業でも改善がみられる。</p> |

| | |
|----------------------|---|
| <p>医学部(保健学科)</p> | <p>【結果概要】 ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業を実施して、各委員の授業方法・質の向上に努めている。単なる模擬授業ではなく、授業実施に当たっては如何に学生に興味を持たせるか。また如何に内容を理解することができるようにできるか。このようなことを念頭に置き、要点をおさえ丁寧に説明するなど、ベストティーチャー賞受賞者が特に留意している点を中心に講義をしてもらった。</p> <p>また、ワークショップでは、和泉学部長及び保健学研究・教育センターの村上教授・嶋田教授・篠崎教授による講演を行い、2014年4月に設置された「未来先端研究機構」について共通認識を図るとともに全教員に周知することを目的に実施した。</p> <p>【課題】 特になし</p> <p>【具体的な改善事例】 特になし</p> |
| <p>医学系研究科</p> | <p>【結果概要】 前年度は「地域オープンイノベーション R&D 人材養成」プログラム及びそれに基づき設定した「医療開発医科学コース」について概要の説明が行われた後に、研究プロジェクトに対して支援を受けた大学院生による研究成果報告会が開催されたが、本年度は「研究環境の整備について」と題して昭和キャンパスの各研究施設から新規導入機器の紹介がなされた。これまで昭和キャンパスにどのような研究機器が設置されているかに関して大学院生に周知が十分とはいえなかったが、このFDにより大学院生のみならず若手研究者への周知を徹底することができた。</p> <p>【課題】 研究機器の効率的な利用体制を確立し、利用法のガイダンスを適宜行う必要性が明らかになった。</p> <p>【具体的な改善事例】 研究機器の効率的な利用体制を確立し、利用法のガイダンスを適宜行えば、新規導入機器の利用率が上昇し、大学院生の研究活動が益々盛んになることが期待される。</p> |
| <p>理工学部 理工学府</p> | <p>【結果概要】 公開授業については、学科で実施科目と期間を決めて教員が自由に他の授業を見学することができる。見学した教員は報告書を作成し、提出している。その中では、他の教員の授業の進め方で参考になる点や学生の反応を客観的に見られたこと、自身の授業に取り入れたい部分を再確認できたという意見が多かった。</p> <p>また、ベストティーチャー賞受賞者による模擬授業を実施して、知識の伝達ということだけでなく、工夫をしている点、例えば PPT の使い方や板書の仕方、話し方など、特に留意している点を踏まえて講義をもらい、出席者もその授業の良いところを発見し、自分の授業にも活かすよう心がけてもらう良い機会となっている。</p> <p>【課題】 出席者の確保、出欠確認の簡素化</p> <p>【具体的な改善事例】 カードリーダーを使用して出欠確認を行ったところ、入口で滞ることなく、開催までの流れがスムーズになり、集計作業も簡素化された。</p> |

4. 学生等への意見調査 (在学生、卒業(修了)生、就職先及び保護者など)

(1) 実施状況

| 学部等 | 名称 | 実施月日 | 対象者・人数 | 内容 |
|------------------------|---------------------|-----------------------------|--|--|
| 教育学部 教育学研究科 | 教育に関する 現況調査アンケート | H27. 1.26 ～ H27. 2.20 | 学部3年生 150件 学部4年生 175件 大学院生 67件 | 教員養成課程に関する 教育の現況を明らかに する |
| | 教育に関する 現況調査アンケート | H27. 1.29 ～ H27. 2.27 | H22-24年度卒業生 68件 H22-24年度大学院修 了者 15件 | 教員養成課程に関する 教育の現況を明らかに する |
| 社会情報学部 社会情報学研究 科 | 新入生との懇談会 | H26. 4. 3 | 学生 106名 保護者 30名 | 新入生と教員による懇 談 学部長と保護者による 懇談 |
| | 後援会総会 | H26. 6.21 | 保護者 46名 | 後援会総会の中で、保 護者と懇談 |
| | 企業ヒアリング | H26. 9.25 他 | 企業 6社 | 社会の変化を踏まえた 機能強化を図るため、 ヒアリングを実施 |
| | 高等学校進路指導教諭 ヒアリング | H26. 8.29 H26. 9. 8 | 入学実績上位の 近隣高等学校 4校 | 高校生および進路指導 教諭の本学部につい ての認識や高校生の志 望動向についてヒアリ ングを実施 |

(2) 意見調査に基づく自己点検・評価

| 学部等 | 結果概要・課題・具体的な改善事例 |
|----------------|---|
| 教育学部 教育学研究科 | <p>【結果概要】</p> <p>平成26年度末に実施した学部生を対象としたアンケート調査の結果をまとめて報告書を作成した。前年度より実施期間を1週間程長くしたため、前年度と比較すると全体の回答率は伸びた。また、教育学部の総合評価が全体的に高くなっており、「教員・スタッフ」の項目は前年度より大幅に評価が高くなった。</p> <p>平成22-24年度卒業生・大学院修了生を対象としたアンケート調査の結果をまとめて報告書を作成した。前回の平成19-21年度の卒業生対象の調査との比較では、「教育のための施設・設備」の項目、修了生対象の調査との比較では、「教員・スタッフ」「授業編制や教育課程」の項目で特に評価が向上していること、そのほか全体的に評価が高くなっていることを確認した。</p> <p>【課題】</p> <p>全体の回答率は年々伸びてきているものの、本年度の学部3年生の回答率は前年度より5.65ポイント下がった。</p> |

| | |
|----------------------------|---|
| | <p>【具体的な改善事例】 特に在学生には可能な限り協力してもらえよう、学生への周知・依頼を徹底するとともに、全体の回答率をさらに伸ばすことができるよう、実施期間について引き続き検討する。</p> |
| <p>社会情報学部 社会情報学研究科</p> | <p>【結果概要】 保護者との懇談を通し、成績表の配布等昨年度から引き続き時期を早めて実施するようにしている。 また、社会のニーズを踏まえた学部の機能強化を図るべく企業ヒアリングと高等学校進路指導教諭ヒアリングを行った。</p> |
| | <p>【課題】 学部卒業生に対して、教育ポリシーに沿った人材の育成、企業が求める人材の育成等についてそれぞれ企業からの評価を受けたが、高等学校進路指導教諭の認知が低いことが再確認された。 今後は広報活動に工夫をする事が必要となってくる。</p> |
| | <p>【具体的な改善事例】 企業ヒアリングの実施結果を、カリキュラム改革及び学科再編に反映させるべく作業を行っている。高等学校への戦略的広報の計画を作成中である。</p> |

5. その他 特記事項

| 学科等 | 特記事項 |
|----------------------------|--|
| <p>教育学部 教育学研究科</p> | <p>授業評価アンケートにおいて、後期授業はWEBを利用したアンケートを実施したが、回答率は50%であり、回答率を上げる方策を教務委員会において検討する予定である。</p> |
| <p>社会情報学部 社会情報学研究科</p> | <p>学部卒業時・研究科修了時アンケートの実施</p> |
| <p>医学部(医学科)</p> | <p>卒業生等への調査は、検討中である。</p> |
| <p>医学系研究科</p> | <p>本研究科ではとくに学生との懇談会・意見調査などは行っていないが、上記FDや「大学院生によるワークショップ」の後に、学生と教員、外部評価者、招待講演者などとの意見交換会を開催しており、その機会を利用して学生からの意見を聴取し、それを教育方法改善に役立てよう努めている。</p> <p>[改善事例]</p> <ol style="list-style-type: none"> 秋入学の生命医科学専攻(修士課程)の学生と懇談した結果、日本語での授業は理解ができない事が明らかとなったため、すべての講義実習を英語で開設することとした。 日本語によるコミュニケーション能力向上のため、通常授業の「基礎科学日本語」に加え、週に複数の日本語の授業を選択科目として開設し、受講できるようにした。 <p>これらの結果、学生の講義に対する理解力が飛躍的に上昇し、また、日本語の学習機会が増加した。</p> |

| | |
|--------------|--|
| 保健学研究科 | <p>保健学研究科では平成 25 年 3 月に保健学研究科修了生全員を対象としてアンケート調査を実施し、平成 26 年に報告書を作成した。方法は郵送による自記式質問紙を用い、全修了生 540 名の内、現住所不明等を除く 336 名に送付し、219 名から回答を得た(回収率 65.2%)。</p> <p>調査内容には大学院教育の評価:大学院での学習の効果(高度な専門知識・技術、教育指導能力、研究能力、就業機関への有益性、有用だった科目)を含み、アンケート結果の解析を行い、今後の大学院教育に活用(解析結果に基づいたFDの実施、カリキュラムの編成、社会人大学院生に対する支援等)していく予定である。</p> |
| 理工学部 理工学府 | <p>知能機械創製部門では群馬県内の企業や学校の方々に外部評価委員をお願いし、毎年外部評価委員会を開催している。委員会では機械知能システム理工学科で行われている教育活動について、教員から委員の皆様説明するとともに、実際に講義、製図、実習の現場や図書館等施設の見学などをさせていただき、その後で各委員と質疑応答を行っている。さらに評価報告書に要望や指摘事項を記入後提出いただいている。また質疑応答では各委員からの質問に対して教員が回答するとともに、問題点については部門内の対応する各小委員会(カリキュラム検討小委員会、JABEE 対応小委員会、実技教育検討小委員会等)で検討し、改善を図るようにしている。本年度は 10 月 10 日に第 1 回、12 月 3 日に第 2 回の外部評価委員会が開催された。根拠資料として、第 1 回外部評価委員会の議事録、質疑応答の記録および外部評価委員からの指摘事項をまとめた資料、第 2 回外部評価委員会の議事録を提出する。</p> <p>また本年度当部門は JABEE 認定の審査を受けた。当部門で作成した自己点検書が審査されるとともに、9 月 14 日から 16 日にかけて実地審査が行われた。正式な審査結果は現時点で届いていないが、実地審査の際に審査委員長からの質問事項に対する回答する機会が設けられたため、その際の回答書を根拠資料として提出する。この回答書に記載された回答は当日口頭で審査委員長を始めとする審査委員の皆様説明された上、回答書も直接渡した。</p> |

6. 根拠資料

| 学部等 | 根拠資料 |
|--------------------|---|
| 大学教育・学生支援機構 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 26 年度前期授業評価質問票 学びのリテラシー(1) 2. 平成 26 年度後期授業評価質問票 学びのリテラシー(2) 3. 平成 26 年度教養教育アンケート用紙 (教務システム利用) 4. 平成 26 年度前期授業評価集計表(学びのリテラシー) 5. 平成 26 年度後期授業評価集計表(学びのリテラシー) 6. 平成 26 年度教養教育アンケート集計表(教務システム利用) 7. 学生と学長との懇談会要旨 8. 群馬大学ベストティーチャー最優秀賞候補者による公開模擬授業等の開催について 9. Gunma University English Language Teaching FD Seminar & Lecture 10. 平成 26 年度 学びのリテラシーFD— 全学導入から2年間の取り組みについて — 11. 第6回全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」の開催について 12. Gunma University English Language Teaching FD Seminar |
| 教育学部 教育学研究科 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業評価集計結果 2. 授業評価アンケート用紙・WEB画面 3. 授業改善報告書 4. 平成 26 年度教育学部長と学生との懇談会要望事項一覧 5. 平成 26 年度修士課程院生アンケート(学生と教員との懇談会)回答 6. 特設の授業公開概要 7. 教育に関する現況調査アンケート 在学生(3 年生)調査結果報告書 8. 教育に関する現況調査アンケート 在学生(4 年生)調査結果報告書 9. 教育に関する現況調査アンケート 大学院生調査結果報告書 10. 教育に関する現況調査アンケート H22-24 年度卒業生調査結果報告書 11. 教育に関する現況調査アンケート H22-24 年度大学院修了者調査結果報告書 12. 教員養成 FD センター推進プロジェクト報告書 13. 教育学部 FD 講演会配布資料 |
| 社会情報学部 社会情報学研究科 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業評価アンケート用紙・集計結果(学部・大学院) 2. 学部長との懇談会実施要項・記録、研究科長との懇談会案内・記録 3. 平成 26 年度ガイダンス等一覧 4. 平成 26 年度群馬大学社会情報学部後援会定期総会次第 5. 群馬大学社会情報学部企業ヒアリング調査 報告書 6. 高等学校進路指導教諭ヒアリング報告書 7. 平成 26(2014)年度 4 年生卒業時アンケート 8. 大学院社会情報学研究科 平成 26(2014)年度 2 年生修了時アンケート |

| | |
|--------------|---|
| 医学部(医学科) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 26 年度 医学教育教授法ワークショップ配付資料 2. 診療参加型臨床実習の実施のためのガイドライン 3. 診療参加型臨床実習の実施のための医学生の医行為水準策定 4. 平成 26 年度前期 教職員と学友会による懇談会 5. 平成 26 年度後期 教職員と学友会による懇談会 |
| 医学部(保健学科) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 26 年度 保健学科ワークショップ(第2回)次第 2. 平成 26 年度 前期授業評価アンケート(医学部保健学科)集計結果 3. 平成 26 年度 保健学科学友会との懇談会(第1回) 4. 平成 26 年度 保健学科学友会との懇談会(第2回) |
| 医学系研究科 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 群馬大学大学院医学系研究科医科学専攻・生命医科学専攻FD兼成果報告会次第 |
| 保健学研究科 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 26 年度 保健学研究科博士前期課程 授業評価アンケート【看護学特別セミナー】 2. 平成 26 年度 保健学研究科博士前期課程 授業評価アンケート【リハビリテーション学特別セミナー】 |
| 理工学部 理工学府 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業改善のためのアンケート用紙 2. 授業改善のためのアンケート結果票 3. 公開授業に関するアンケート 4. 学生との懇談会 5. ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による模擬授業(pptを使用したため次第のみ。「教員会議」に記載) 6. FD 講演会 7. カリキュラム委員会資料 8. 第 4 回博士キャリア開発講演会 9. 平成 26 年度 第 1 回外部評価委員会の議事録、平成 26 年度 第 2 回外部評価委員会の議事録 |

別紙 2

学生と学長との懇談会要旨

日 時 平成26年7月22日(火) 16:00～17:30

場 所 大学会館2階(ミューズホール)

出席教職員 高田学長、石川理事、高山教養教育部会長、高橋教養教育部会副
部会長、久米原総合情報メディアセンター教授、道見学務部長、
松村研究推進部長、八木教務課長、戸澤学生支援課長、関国際交
流課長、矢島総合情報メディアセンター課長、村居施設企画課長、
中村施設整備課長、北村施設企画課副課長

オブザーバー 海野群馬大学生生活協同組合専務理事

出席学生数 98名

概要 出席教職員の紹介があった後、下記のとおり、学長挨拶及び学生との懇談が行われた。

記

○学長挨拶及びコメント

1年生が多いと思いますが大学生活は慣れましたか、今日の懇談会ですが、私や理事・副学長・学部長・研究科長・研究所長から群馬大学がどういう大学であるか、あるいは大学とはどういうところかということに関して授業があったと思いますが、それを基礎知識にして、皆さんの意見によって大学を良くしていこうと話しが出来ればと思います。事前のアンケートに記載されていた「学長から直接聞いてみたい事柄」について代表的なものについて話したいと思います。

だいぶ昔のことですが、大学に入るということは随分変化があることで、大都会に出て電車の乗り方も分らず、最初は満員電車におじけづき東京で一人での生活がこれから大丈夫かと思っていました。

みなさんは情報が色々なところから入ってくるので大丈夫だと思いますが、大分違う時代でした。最初、教養教育でいろいろな教員の授業を受けたりクラブ活動をしていました。今思うと大学の時代に友達になった人は非常にありがたいです。皆さんはこれから4年間又は6年間大学在学し、就職しますが、職場に入って友達になった人は仕事の上で、例えば儲かるとか儲からないとかの話が多く本当の友達はなかなかできません。頼りになり、いろいろな相談ができる方は大学の頃に友達になった人で、利害抜きで話し合える人となります。

特に他の学部の方と友達になることは非常に良いことだと思います。私も大学の時知り会ってから30年くらい会ってなくても、学生時代の話に始まり、いろいろな相談を本当に応えてくれますので、人と人の付き合いを大事にしてください。

当時大学紛争というものがあり、教室の窓ガラスは全部割れ、黒板は穴だらけ、マイクは音がでない、冬になっても暖房もない状態で始まって大変でしたが、とはいえ図書館で勉強していた記憶があります。就職するとあの頃もっと勉強していればよかったなと振り返ることがありましたから、皆さんは有効に時間を使ってください。

私もいろいろやってきて、現在は学長をしていますが若い時は失敗することが沢山ありました。でも今になって思うと人生の中でひどいことにあうのは沢山あり、ひどい目に遭ってそこで終わったらしょうがないですが、そこから立ち直って戻ってくれば、ひどい経験をするには非常に大きな宝になり、人生の経験はいかに失敗をしたかに尽きると思います。

失敗を沢山してひどい目に遭っていることは、もう一回そのような場面になったら冷静に判断できます、そうすれば道が開けてきます。ぜひ若いうちから、出来ないと決めずにチャレンジしていただければと思います。

みなさん英語の勉強を始めていて海外に行く機会もあると思いますが、英語でうまくなるにはどうすれば良いかという、出来るだけ恥ずかしい思いをしてください。海外に行って通じなくても良いから話をすれば道は開けてくると私は思います。

群馬大学について

群馬大学のことについて私や理事・副学長・学部長・研究科長・研究所長からお話ししましたが、アンケートで聞き足りないことが書いてありました。それぞれ自分の入っている学部がどうなるか、自分の進んだ道は大丈夫なのかと悩んでいる方もいました。群馬大学の学部はいずれも医学部だったら医師、理工学部でしたらエンジニア、社会情報でしたら公務員とか行先がわりとはっきりしている。他の大学で文学部を出て学者になる人はよいが全員はなれないので、その先を考える必要がありますが、群馬大学はある程度先輩をみていただけるとどうなるかがわかるので、それを目指し頑張っていただければ良いと思います。日本の大学は800くらいありますが、その中で国立大学は100以下しかない、その中で群馬大学はかなり上のところにあります。そう意味では誇りをもって生活してください。国立大学は国民の税金の貴重な部分が投入されており、国民のみなさまからの期待も大きいし、みなさんが活躍できるように大学では教育をしているので、それに応えてほしい。国立大学の予算は1兆

円以上を使用しており、群馬大学でも100億以上の予算を使用しています。これを使ってみなさんを教育しています。ぜひそれを真正面から受け止め、そして社会の有能な人材になることが、みなさんの夢の実現となると思うのでぜひがんばってほしいと思います。

大学運営に関し、目の届かないところもあるので今日は自由な意見を言っていただき、各部署の責任者がいますので、出来ることと、出来ないことがあります。いろいろな提案をしていただければと思います。

○学生との懇談

教養教育部会長：それでは、まず、事前に提出のあったアンケートに対する回答をし、その後、その他の質問にお答えしようと思います。

学生：女子トイレに不審者が出たことへの対策はあるのでしょうか。

教務課長：荒牧地区構内の平日昼間時間帯の防犯対策の強化として、7月1日(火)から、平日昼間時間帯に、警備員を配置しました。警備員は、学生及び教職員の安全確保や、盗難等を未然に防止することを目的に、主に構内の巡回警備にあたります。トイレや学生更衣室の付近、建物の死角となる場所等は不法侵入者が潜む可能性があるため、巡回時には特に注意するよう指示しています。各駐車場も巡回の対象としています。また、防犯カメラの増設も予定しています。今回のような事件は、何時でも何処でも発生する恐れがあります。各自十分注意するとともに、不審者を発見した場合は速やかに教職員へ通報してください。

学生：無理な要望であると思いますが高崎に校舎があったほうが楽しく充実した学生生活をおくれると思います。

学長：各キャンパスには歴史的背景があり、地域との連携し成立している部分もあり、簡単にキャンパスを移動することはできません。社会情報学研究科では、荒牧キャンパス外開講科目のためにサテライト高崎を設置していますが、大学の建物内には研究設備や重粒子線装置など高額な装置が設置されており、莫大な予算も必要になるため高崎にキャンパスを設置する計画はありません。

学生：途中からキャンパスが変わるのは非常に不便です。

学長：教養教育を荒牧キャンパスで行い、特に理工学部は専門教育を桐生キャンパスで行うこととなりますが、キャンパスを移動することにより負担が

かかると思いますが、理工学部は桐生の地元が学校を設立した歴史的背景がありキャンパスを移動するのは非常に難しい。学生寮を今後改修する計画もあり、少しでも不便さを解消しようとしています。

学生：希望した講義を必ずとれるようにしてほしいです。

教養教育部会長：希望した講義が必ず受講できるというのはもっとも望ましいのですが、受講生数や教室の広さ等の事情で受講生数を制限することもあり、必ずしも希望に添えないのが実情です。一方、教員の側としては、なぜ受講を希望するのかを知りたいということもあります。単位が取りやすいとか、出席を取らないとかの理由で受講を希望されるのは困るということです。

学生：他専攻、他学部の教授と関わる機会を増やしてほしいです。

教養教育部会長：今後、専門科目の履修においては、所属する学部教員と接する機会が多くなりますから、まずは、教養教育の科目については所属学部の教員の授業科目を履修せずに、できるだけ他学部の教員の授業を履修するとよいでしょう。

学生：講義の多様化、とくに教養科目が理系科目に偏っているように感じられます。

教養教育部会長：ご指摘の通り、近年は文科系の科目が少なくなっています。大学としての事情があり、申し訳ないのですが、学年末に実施されるアンケートなどで、是非そのような要望を出してください。

学生：テストについての情報は可能なだけ早めにほしいです。

教養教育部会長：それぞれの授業科目については、シラバスに成績評価の方法として記載されているはずですが、それ以上の情報は、授業担当の教員にお尋ねください。

学生：教授が話しているばかりで、もっと頭を使った勉強がしたいです。

教養教育部会長：授業の目的が、知識を学んでもらうことにウエイトがある場合、講義主体の授業にならざるを得ないこともあります。すべての授業がそのようなスタイルであるわけではなく、学生が積極的に参加するアクティブラーニングなどの授業もありますのでシラバスで確認してください。

学生：キャンパスによって授業の開始時間が違っているため、わかりにくいの

で統一してほしいです。

教養教育部会長：昭和キャンパスには病院があり、診療時間等の関係で、荒牧とは異なった時間になってしまうという事情があります。むしろ時間をずらしてあることで、2年生以上では、荒牧の授業が受けやすいというメリットもあります。

学生：ナースプラクティショナーへの派遣制度を取り入れてほしいです。

教養教育部会長：ナースプラクティショナーは、5年以上の臨床経験を積んだ看護師が、大学院で取得する資格です。したがって、大学では看護師になるための学修を進め、卒業後、臨床経験を積むことが大切です。

学生：他学部でやっていることをもっと知りたいです。

教養教育部会長：サークル活動などで他学部の友人を作り、他学部のことを知ることや、あるいは、高校生向けではありますが、各学部の紹介パンフレットなども参考になるでしょう。

学生：連絡が掲示版だけなので何があるのかを理解できていないことがあります。人が集まると見えにくくなります。

教養教育部会長：掲示板には必要最小限の情報が示されています。理解できない点があれば、事務職員や関係する教員に確認し曖昧な点がないようにしてください。混み合う時間もありますが時間等をずらして確認してください。大学では、待っているだけでは、誰も助けてくれません。

学生：学力向上のため他大学と交流したいです。

教養教育部会長：教養の授業科目に関しては、近隣の公立大・私立大と単位互換の制度があります。他大学生でも履修可能な授業科目が、それぞれの大学で用意されています。そのための授業料はかかりません。また、放送大学の一部の科目も、本学の教養科目の単位として認定されるものがあります。ただし、こちらは履修に際して費用がかかります。詳しくは、それぞれの大学か、教務担当の窓口でお尋ねください。また、授業以外の交流として、自治体や企業などが主催する活動があります。近隣大学生が集まり、さまざまな活動をするケースです。前橋市では「やる気の木プロジェクト」というものがあります。自治体や地元企業のHPなどを検索してみてください。

学生：席の数に余裕ができるように教室を設定してほしいです。

教養教育部会長：できるだけ席に余裕がある教室配当を行っていますが、受講生数と教室サイズの関係で、窮屈な状況にならざるをえないケースもあります。

学生：駅から遠く、バスも少ないため本数を増やしてほしい。もしくはスクールバスを作してほしいです。

教務課長：バス会社に確認したところ、3月に改正した時に本数を増加させ、また、現在路線の再編を検討中で今後大学の授業時間割や利用状況を参考にして、運行ダイヤ改正を検討するとのこと。スクールバスという方法もありますが、経費の関係から難しいところです。

学生：休日にもトイレを使用したいので、外にトイレを作してほしいです。

学生支援課長：荒牧地区では、グランド中央のレストハウスと合宿研修施設にトイレがあり、休日でもグランド使用などに利用されています。管理上の問題や安全面から数を増やすことは考えていません。

教養教育部会長：それでは、これから直接質問を受けてお答えしようと思いますので、質問のある方は挙手をお願いします。

学生：ネットワークを使用したムードルでの英語の多読における課題時に24時間に1回しか解答出来ない場合やネットワークの関係で出来なくなる場合があります。

メディアセンター久米原教授：ムードル英語多読の開発者に確認したところ、2・3日に1回のペースで行って欲しいとのこと。レベルの低いものについては1日2回は出来るということです。ムードルに関してはボランティアの方が開発したもので、カスタマイズが早くブラウザーとの整合性がとれない場合もあるのでIEやファイヤーフォックスなど違うもののためしてください。ネットワークについてはご指摘のようなこともあるかと思えますので、時間をおいたりして他の人の利用を確認してみてください。

学生：体育館が小さいので、広さを大きくしてほしい。バレーボール部に所属しているが、コートが狭くプレーが制限される場合があるためコートの周りを広くしていただきたいです。

学生支援課長：課外活動などクラブサークルが多いので、クラブ利用の調整会議で調整を行ったり、同種類は共同で行ったりして協力をお願いします。現在は増設などの計画はなく、予算の関係で難しいところです。

学生：他学部の講義については教養科目だと受けられるが、専門になっても他学部の講義を受講することができるのでしょうか。

石川理事：学部の専門科目なので教養の時にとらなくてはならない科目とオーバーラップしてしまうのが結構多いと思います。もし本当にそのことに興味があるのでしたら興味のある担当の先生のところに行って、どんな勉強をしてどんな本を読んだらいいか自分の知的好奇心を満足させることができるのではないかな。わからなかったら個人で教えていただくのが良いのかなと思います。カリキュラムの編成上自由度は少ないというのが実情です。

学生：身長が低い学生は女子トイレのフックが高く掛けられないので、トイレに荷物置きを設置するか、フックを低い位置にもつけてほしいです。

石川理事：対応します。

学生：本日の懇談会に出席していない学生に対しても、どのような対談があったか伝わる機会が設けられないのでしょうか。

石川理事：本日の懇談会の内容についてオープンにすることを拒むことはないので、質問の回答をお知らせすることはできます。また、専門課程においても学部長との懇談会を行っています。

学生：教育学部C棟の傘立てが少なく傘立て以外の所に傘を置いています。また、駐輪場からはみ出して置いてある自転車が有り、通りにくい場合もあるので線を引いたら良いのではないのでしょうか。

石川理事：傘立てについては教育学部の担当に調査していただき、必要であれば検討してもらいます。

学生支援課長：駐輪場はいろいろな場所にあるが体育館側がかなり空いているので、そちらを使用してください。また、車椅子のスロープを出たところに自転車を駐輪する方が見受けられるので、そこには駐輪しないでください。

学生：課題の関係で夜の10時頃構内に車で来るが、特に守衛さんに止められず、夜に不審者などが侵入する恐れがあるため一時停止をさせ学生証を提示するなど対策を取ったほうがよいのではないのでしょうか。

教養教育部会副部長：検討します。

学生：バスの増便の話もありましたが、通学定期の料金が1ヶ月1万円掛かる

のは高いです。

教務課長：料金については、バス会社において収支を見込んだ上で設定されているので料金を安くすることは難しいと思いますが、機会がありましたらバス会社と話し合いをしたいと思います。

学生：18時以降になると社会情報学部棟に入れなくなるが自主学習を行いた
いので、入れる時間をもう少し長くしてもらいたい。

教養教育部会長：学部の懇談会もあるのでこちらにも意見を出してください。

以上